

平成29年度JAIST修了者アンケートの結果（20年版）

1. 調査の概要

① 調査目的：

大学院における教育の成果は修了10年、20年を経ってから判明するという認識の基に、修了後10年及び20年を経た修了生から意見を聴取し本学の教育内容・方法の改善に役立てることを目的とする。

② 調査対象：平成8年度修了者234名のうち、所在不明者30名を除く204名

《情報科学研究科 博士前期課程および博士後期課程、材料科学研究科 博士前期課程のみ》

③ 調査内容：

1. 入学時の状況について
2. 現在の勤務先について
3. 大学院の教育方針について
4. 本学での学修成果について
5. 本学の印象について
6. ご意見

④ 調査期間：平成29年12月8日～平成30年1月12日

⑤ 調査方法：

本学が把握済みの現住所又は帰省先へ郵送。

同封の返信用封筒（送料本学負担）で返送又は本学ホームページから回答するよう依頼した。

⑥ 調査数：

発送数 170件（宛先不明返送34件を除く）

回答数 24件（うち郵送6件、ホームページから18件）

回収率 14.1%

<研究科・課程別内訳>

情報科学研究科 博士前期課程 9名／105名

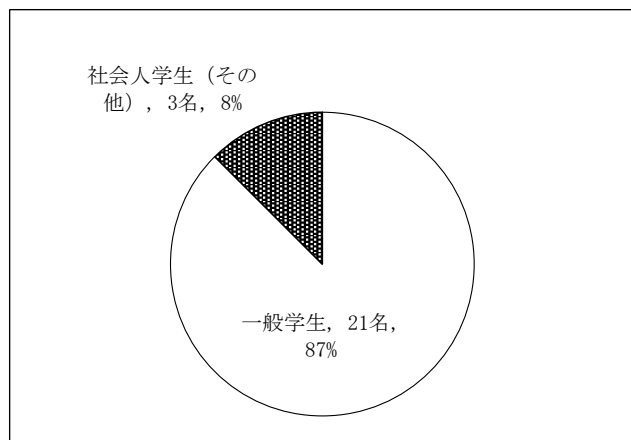
博士後期課程 3名／17名

材料科学研究科 博士前期課程 12名／112名

2. 調査結果

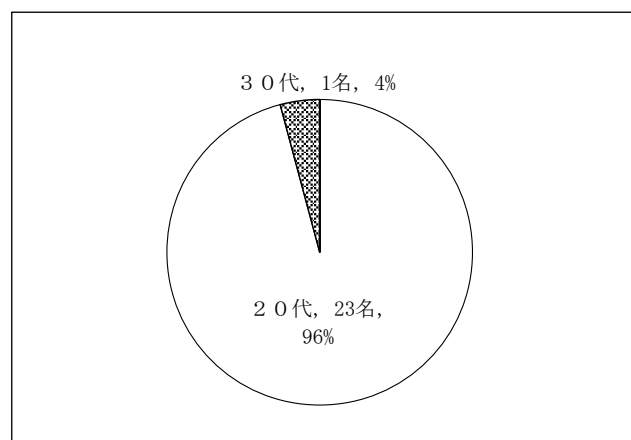
【1. 入学時の状況について】

1-1. 在学区分



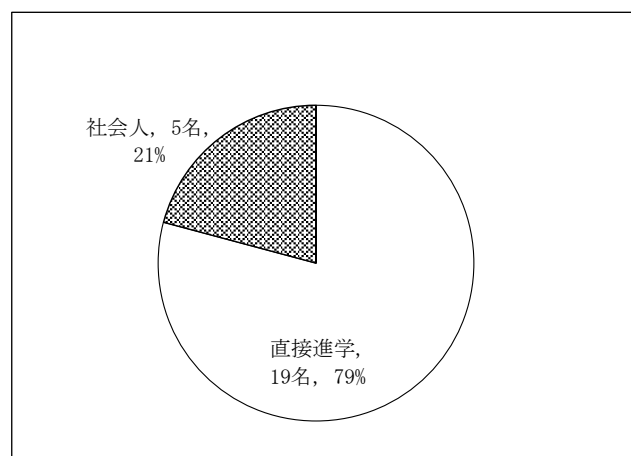
1	一般学生	21名
2	社会人学生 (企業派遣)	0名
3	社会人学生 (その他)	3名
4	外国人留学生	0名
	無回答	0名
	合計	24名

1-2. 入学時年齢



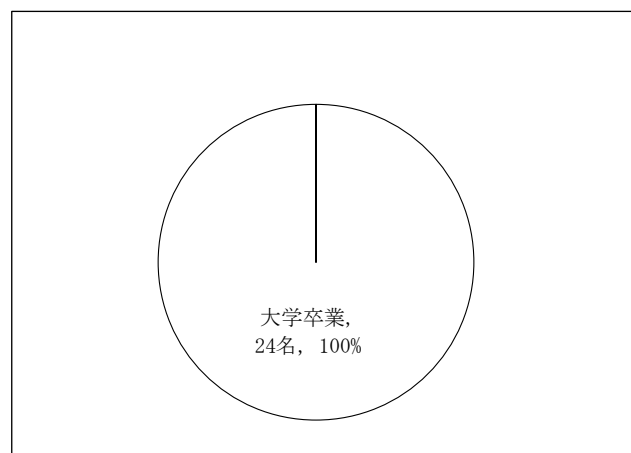
1	20代	23名
2	30代	1名
3	40代	0名
4	50代	0名
5	60代以上	0名
	無回答	0名
	合計	24名

入学時経歴



1	直接進学	19名
2	社会人	5名
3	研究生等	0名
4	無職・その他	0名
	無回答	0名
	合計	24名

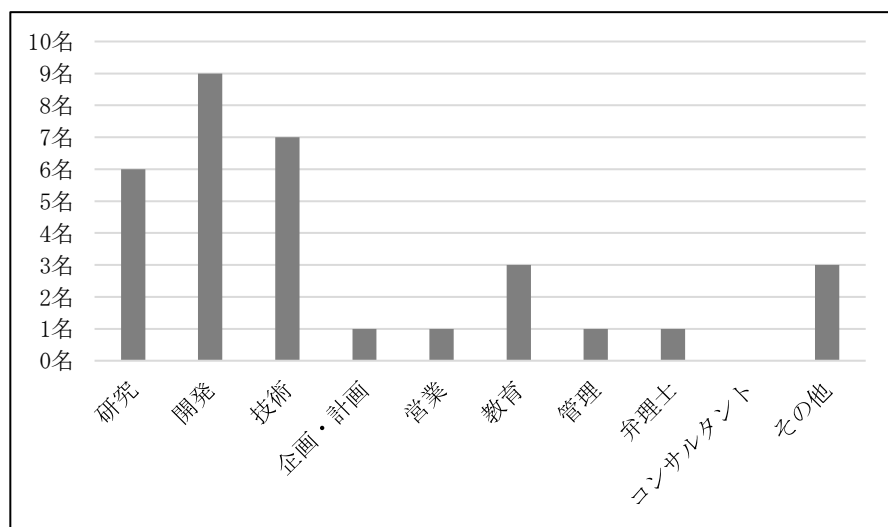
入学時学歴



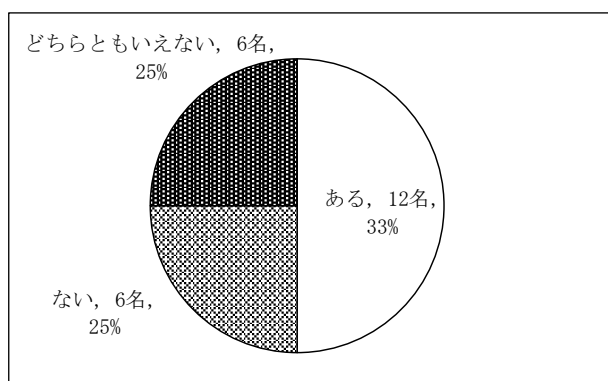
1	大学卒業	24名
2	高専専攻科修了	0名
3	飛び入学/大学退学	0名
4	その他	0名
	無回答	0名
	合計	24名

【2. 現在の勤務先について】

2-2. 現在の部署・職業の性質について（複数回答可）



2-3. 本学における学修内容と現職との関連性について

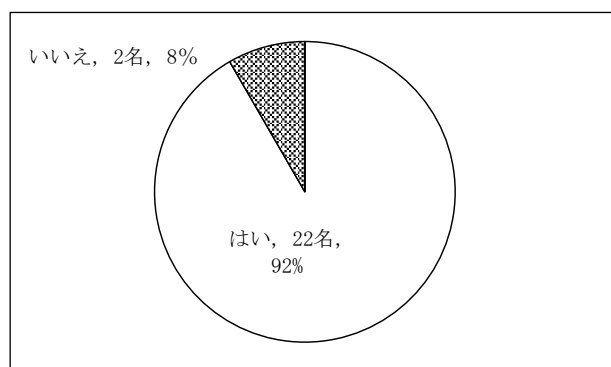


1	ある	12名
2	ない	6名
3	どちらともいえない	6名
	無回答	0名
	合計	24名

【3. 大学院の教育方針について】

3-1. 本学は、幅広い知識を体系的に修得させることを目的とし、大学院教育において以下のような新たな試みに取り組んできましたが、以下の取り組みは、現在のあなたに有益ですか。「いいえ」の場合は、その理由及び有益とするための改善案等がありましたらご記入ください。

・体系的なカリキュラム（講義項目）について

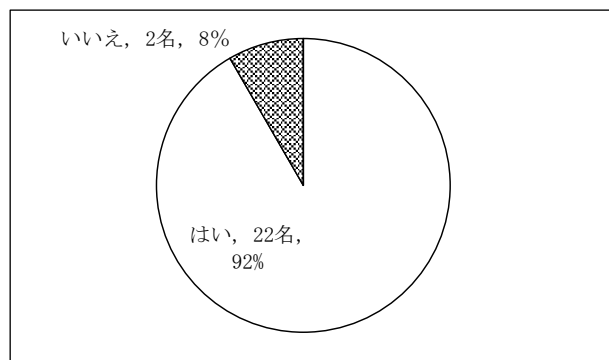


1	はい	22名
2	いいえ	2名
	無回答	0名
	合計	24名

《理由・改善案》

- ・ 基礎的なことは学士で身に着け、修士ではもっと実践的なことを学ぶべきだと思います。会社に入ってから学ぶ姿勢では学士と大して変わらず、2年間の学びが活かされない。凡人に終わってしまう。
- ・ 情報システム学の広範な分野に対応する。
- ・ 英語教育を充実させた方が良いと思われます。
- ・ 幅広い分野について大学院の時点で学びなおすことはその後のキャリアの幅広さにつながったと思う。

・副テーマ研究について

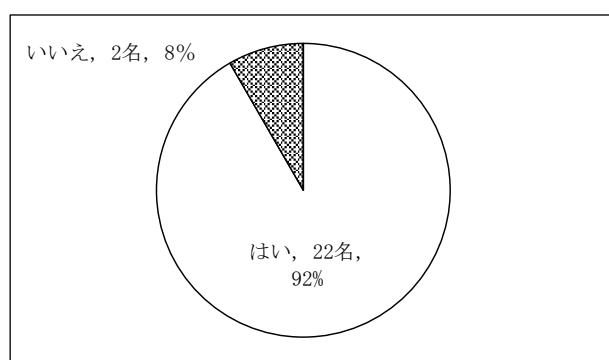


1	はい	22名
2	いいえ	2名
	無回答	0名
	合計	24名

《理由・改善案》

- ・副テーマについて全く記憶にない。
- ・とても良い経験になりました。
- ・得られる知識が限定的で、その知識を活かせない。
- ・研究専攻内容以外について探索を行った経験は特に企業の技術者にとって有益であると思われる。

・複数教員指導制について

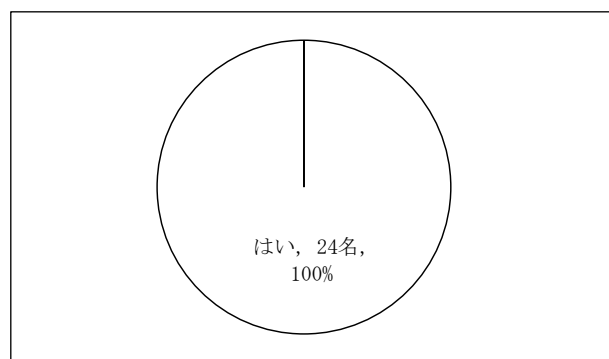


1	はい	22名
2	いいえ	2名
	無回答	0名
	合計	24名

《理由・改善案》

- ・各教員のミッションをより明確にするとよいかもです。
- ・在学中に、あまりメリットを感じなかった。
- ・余り印象に残っていない。

・修士論文研究・博士論文研究について



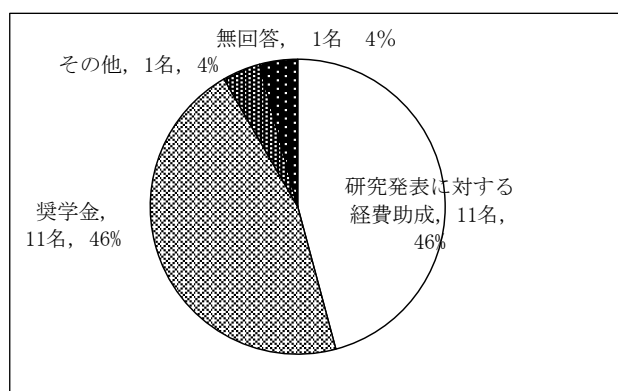
1	はい	24名
2	いいえ	0名
	無回答	0名
	合計	24名

《理由・改善案》

- ・良い指導教官にであうことができました。
- ・論文という形で研究成果をまとめる経験は技術者にとって必須であると思われる。

3-2. 大学院教育において最も必要（有効）と思われる制度等について（単数回答）

・学生への支援

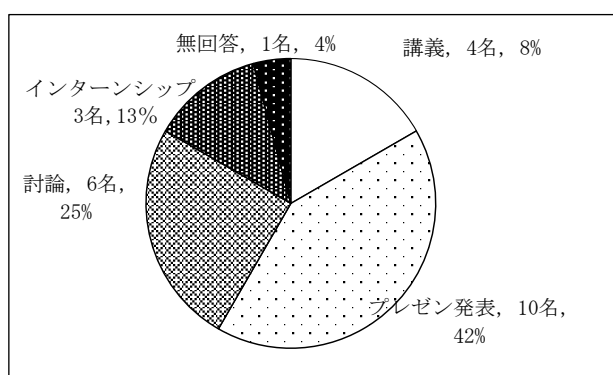


1	研究発表に対する経費助成	11名
2	奨学金	11名
3	その他	1名
	無回答	1名
	合計	24名

《その他の内容》

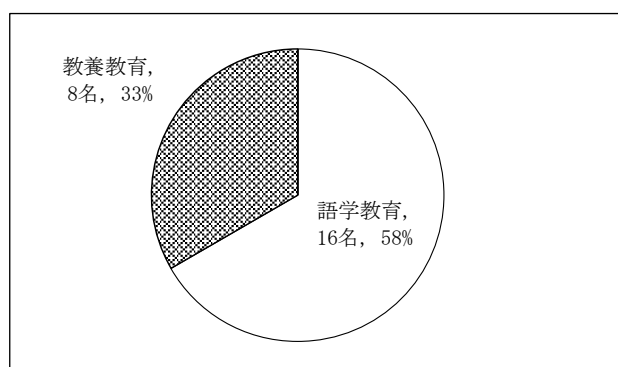
- ・世の中（会社、研究機関等）で求められていることを、面談を通じて表面的に知るのではなく、インターンなどで深く理解する必要がある。

・授業の形態



1	講義	4名
2	プレゼン発表	10名
3	討論	6名
4	インターンシップ	3名
5	その他	0名
	無回答	1名
	合計	24名

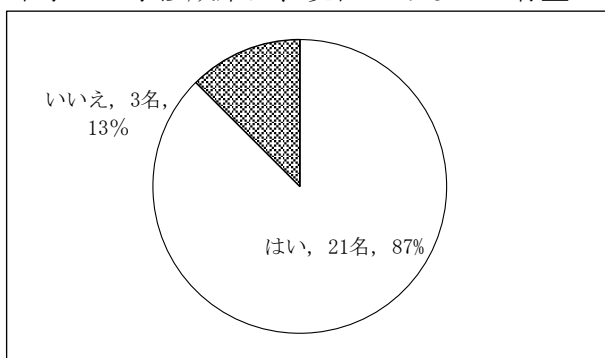
・専門以外の教育



1	語学教育	16名
2	教養教育	8名
3	その他	0名
	無回答	0名
	合計	24名

【4. 本学での学修成果について】

本学での学修成果は、現在のあなたに有益ですか。



1	はい	21名
2	いいえ	3名
	無回答	0名
	合計	24名

《具体的な理由》

<情報科学研究科>

- ・論文執筆を通じて、何が本質か、目的は何なのかを十分に吟味して行動する姿勢が身についた。
- ・JAISTでは、自分自身のビジネスキャリアの基礎を構築する機会を得られました。その結果として、ビジネスにおいてそれなりの成果をあげられ周囲からの評価を受けられました。
- ・情報科学の体系的な履修科目を選択することができたこと、（学生同士で話す機会が多かったこと）専門分野の研究を深耕できたことで、企業の研究・開発分野で仕事が継続できている。
- ・卒業したことそのものだけでなく、そこで得た学びすべてが最良でした。JAISTに心より感謝しております。
- ・習得した知識を活用することができている。
- ・研究するための基本的な知識や心構えを習得することができた。
- ・授業、研究を通じて、内容そのものでなく、エッセンスを学んだ。技術の変化が激しい現在、このエッセンスが非常に役立っている。
- ・現在の職務との関連がなく、活かすことがなくなったため。
- ・情報科学について最高水準での教育が受けられたと思う。施設、カリキュラム、一流の教授、助教の方々の2年間は大変貴重でした。

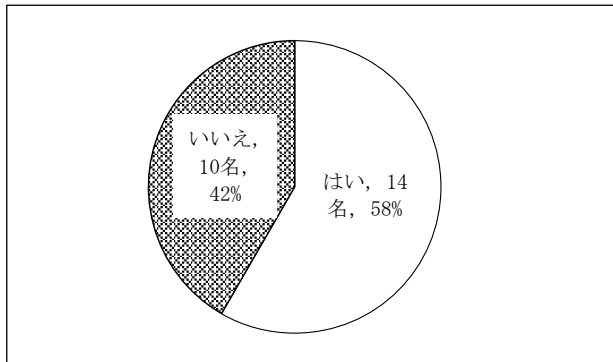
<材料科学研究科>

- ・外部資金にかかる研究支援業務を担当しているので、報告書等の理解もでき、研究者の立場も分かるので支援しやすい。また他の職員に比べ、研究者とのコミュニケーションがとりやすいと感じている。
- ・JAISTの2年間はとても苦しい2年間でした。JAIST専門以外の分野から進学したので、授業についてゆくのも、テストに合格するのも大変でした。しかし、幅広い知識を習得できたこと、専門が変われど、エンジニアとしての考え方や本質の見極め方はこの2年間で十分に学ぶことができました。この2年間はあまりにも衝撃的だっただけに、社会人になって会社で20年働いても、あまり苦痛を感じることはありません。
- ・考える方法を学んだ。
- ・現在の仕事には、学生時代の経験はあまり使い物にならず、社会人になってからの経験が活かしているため。
- ・幅広い知識を習得することができたから。
- ・研究室配属後は実験以外に何もやっていなかった印象があります。研究室配属前のようなハードな講義があっても良かったのではないかと思います。
- ・学生時代に使った研究設備の基礎原理を知っていたため、就職してから他の人よりも早く業務習得、かつ危険物でも安全に配慮して業務できた。
- ・問題にぶつかった時の解決の仕方、文章作成能力、プレゼン能力といろいろ身につけさせて頂きました。
- ・大学院の研究を通じて学んだ技術がその後の技術者としての知識だけでなく、忍耐力や心構えに繋がっていると感ずるため。
- ・幅広い知識を身につけることができ、企業における開発等の活動において、活かすことができたと感じる。

【5. 本学の印象について】

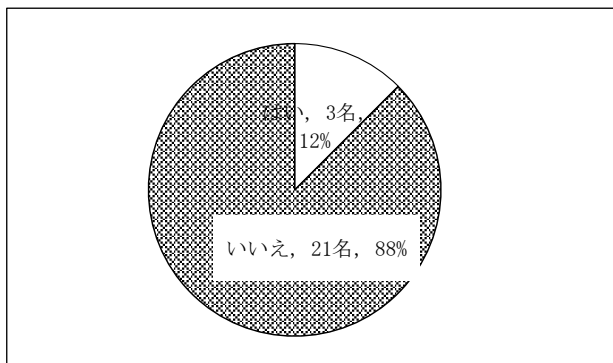
5-1. 外からみた現在の本学の教育面等における印象について、特徴的と思われますか。

- ・教育における取組（副テーマの実施、複数教員指導体制、クォーター制導入 等）



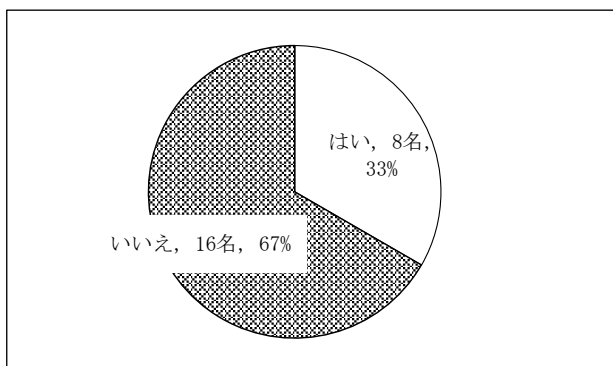
1	はい	14名
2	いいえ	10名
	合計	24名

- ・経済的支援への取組（奨学金制度、授業料免除、研究留学制度 等）



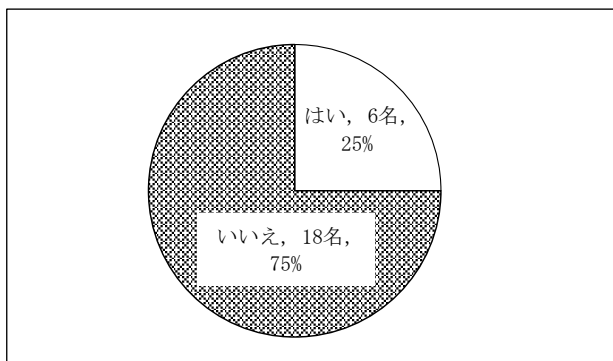
1	はい	3名
2	いいえ	21名
	合計	24名

- ・国際的な活動への取組（海外大学との協働教育プログラム、世界展開力強化事業 等）



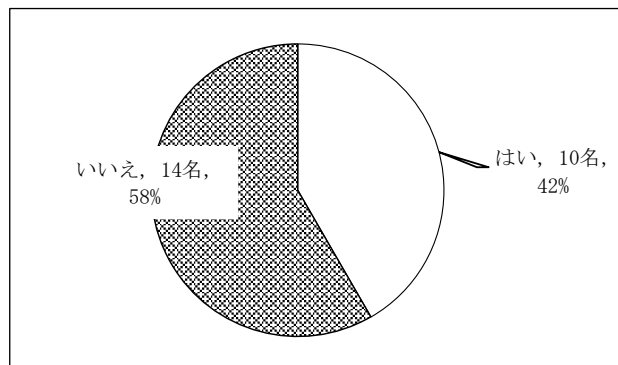
1	はい	8名
2	いいえ	16名
	合計	24名

- ・外国人教員数・留学生数



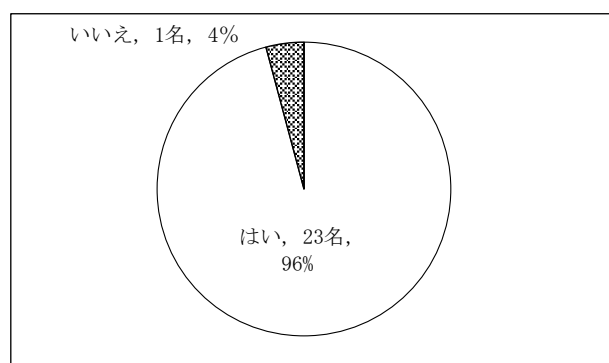
1	はい	6名
2	いいえ	18名
	合計	24名

・大学院大学としての知名度



1	はい	10名
2	いいえ	14名
	合計	24名

5-2. 本学は、現在、「グローバルに活躍できるイノベーション創出人材」を育成することを目指しています。□ これを実現するために、平成28年4月入学者から、「知識科学的イノベーションデザイン教育」を全学生の必修科目とし、さらに研究留学、国際学会等での研究発表、海外インターンシップなどを学生に推奨しています。□ このような本学の教育方針は、産業界等が求める人材像に沿っていると思いますか。また、この教育方針についてのご意見、ご提案がありましたらご記入ください。



1	はい	23名
2	いいえ	1名
	無回答	0名
	合計	24名

《意見・提案》

- ・多国籍の技術者との異文化コミュニケーションを通じて、国際感覚と実践的な英語能力を身に付けることが望ましい。
- ・学会などでの発表を通じて、社会で必要とされるスキルを身につけることが出来ると思います。必要以上に産業界を意識しなくてよいです。学業に専念された方が良いでしょう。
- ・海外志向はとても重要ですが、修士2年の中で満足に行うには相当に厳しく、意識が高いだけでなく、リスクをあえてとらなければ海外に足を延ばせません。学生期間の延長や留学の単位認定、就活時の優先支援など、大胆な時間の調節策が必要とも思われます。
- ・研究を続けるためには行きつくところお金も必要なので、経営、経済マネジメント教育なども入れたほうがさらによいと感じた。
- ・良いと思います。技術の進歩が速く先が読めない時代の中、技術的な内容だけでなく、「先を見通す力」が求められていると思われます。ただし他大学から来るレベルがばらばらな学生に対して基礎的な学力や技術力を高めることをおろそかにしないように学習機会を準備していただけることを期待いたします。
- ・私自身、海外駐在を経験した故、海外で活動できる人材の育成が重要であると考えます。
- ・金勘定、儲かるか儲からないかのセンスを養う。
- ・実践的な英語力が育つ環境や機会は必要なので、そういった体験の機会を増やしていくべき。

【6. ご意見】

最後に、研究室内教育や今後のJAISTに期待すること等、ご意見がありましたらご記入ください。

<情報科学研究科>

- ・ノーベル賞受賞といったメディアに目立つ人材の輩出がなくても、地道によき人材を次々と世に送り出してほしいと思っています。こうした人材の横のつながりは本当に心強いです。私は、本学で学んだことやそこで得た友人たちに多くの場面で支えられて今に至ります。本学に本当に感謝しています。
- ・今後とも引き続きより多くの若者をIT業界に送り出して頂けると幸いです。
- ・先進的な技術についての情報取得手段として、海外の授業がインターネットで公開されており、今後ますます活用されるのでは、と思います。JAISTから発信された情報が有効活用されることを期待しています。
- ・各種聴講制度・科目履修等の制度についてより分かりやすい情報を開示していただき、マーケティングしていただけますと、よりたくさんの方がうれしいかもしれません。
- ・現在の状況は分からないが、私が入学した当時は社会人の方々も多く、学修に対してかなり意欲的に取り組まれており、刺激を受けました。今後もこのような状況であればよいと考えます。社会人の再教育の場が関西エリアにもほしい。
- ・メディアへの紹介等、知名度をもっと上げて発展してゆくことを期待しています。
- ・最新技術に関する情報発信

<材料科学研究科>

- ・JAISTでの2年間は密度が濃くとても楽しかった。当時、海外を意識した教育は充実していなかったもので、そういう環境が整っている今はうらやましい。JAISTの出身者には国内外で活躍をしてほしい。
- ・日本市場は縮小しており、グローバル市場は拡大しており、否が応でも世界と戦わなければなりません。専門知識は元より、語学の重要性も言うまでもなく、異文化への理解も大切です。ぜひ若いうちから世界に目を向けることができるきっかけを提供してあげてください。
- ・グローバル人材を育成してほしい。
- ・地元企業と交流
- ・山の中である環境を生かした他の大学院でなかなか扱えない「危険物」を扱った研究がメインだったので、就職してから研究の延長線上で業務に取り組むことができた。5-3.項でも回答したが、経営、経済マネジメントなど研究を続けるうえでの血液＝お金についての教育も在学当時に勉強したかったのでぜひ教育に取り入れてほしい。
- ・大学院のみの大学としての強みを生かして頑張ってください。
- ・私自身のJAISTでの生活は苦しいときもありましたが豊かで実りあるものでした。今後も研究者のみならず企業でも多数活躍する方々が増えていくことを期待いたします。
- ・ノーベル賞を受賞できるような研究成果